



# 肺がんについて①

わが国における死因の第1位は「がん」です。その中でも死亡者数の最も多いがんは「肺がん」で、1年間に7万6千人の方の命を奪っています。そんな怖い病気ですが、多くの人に肺がんについて知っていただくことで、「治る患者さんを増やす」ことができると思っています。そこで、今回は肺がんについてお話しさせていただきたいと思います。

## 第一回 肺がんの概要・原因・症状について

### ●肺がんとはどんな病気ですか？

日本では年間38万人の方が「がん」で亡くなっています。これは「宮市の人口にあたる数です。その中でも最も死亡者数の多いがんが「肺がん」です。では、肺がんになる方が多いから亡くなる方が多いのかというと、そうではありません。がんにかかる方の数は男性では前立腺がん、女性では乳がんが最も多いのです。つまり、肺がんは「治りにくいがん」ということになります。

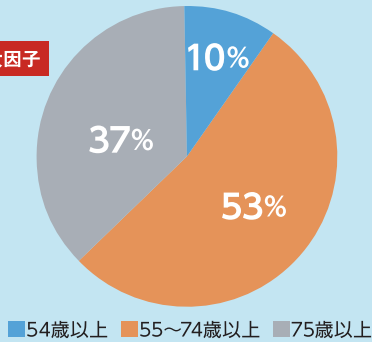
### ●肺がんの原因は何ですか？

残念ながら、確実な原因は分かっていますが、危険因子は分かっています。図をご覧ください。この中で「一番の危険因子は年齢です。その次が性別で、男性は女性の約2倍肺がんになりやすいのです。しかし、「年を取らない」「男性を辞める」と

### 肺がんの危険因子

- 年齢
- 性別(男性)
- 喫煙 ← 予防できる最大因子
- 大気中の有害物質
- 遺伝的素因
- 収入
- 教育
- 調理
- 放射線(ラドン)

#### 肺がんの診断年齢



いうのはなかなか難しいので、自分で予防できる最大の危険因子は「喫煙」ということになります。

### ●肺がんになると

#### どんな症状が出ますか？

せき・たん(血痰)・呼吸困難・胸や背中の痛みなどがあげられますが、いずれもある程度進行した肺がんの症状です。早期の肺がんでは、ほとんど症状はありません。肝臓や膵臓のように、がんに関しては肺も「沈黙の臓器」なのです。では、どのようにしたら早期の肺がんを見つけることができるのでしょうか。

次回は肺がんの検査と診断についてお話しさせていただきます。



監修

総合大雄会病院 副院長

ぬまなみ ひろき  
**沼波 宏樹** 医師

(主な資格)

- 日本外科学会 外科専門医
- 日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医